

作業学習 学習指導案

1. 単元名 「567ストア～大垣産！木のメモ帳を作って販売しよう～」

2. 単元について

特別支援学校における「作業学習」について、「特別支援学校指導要領総則編 H21.6（文部科学省）」では、次のように述べている。

作業学習は、作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものである。

5組の生徒8名は、どの教科でも興味をもって意欲的に授業に取り組むことが多い。そして、仲間の役に立ちたいという思いから、仲間のために喜んで動くことができるという優しさがある。しかし、知的障害の特性である般化しにくいことや経験の未熟さから、仲間とうまく関われないこともある。

そこで、各教科の授業で一人一人の力を高めていくと共に、その力を表現する活用場として、さらに望ましい職業観がもてるような場として作業学習を大切にしていく。生徒の「仲間のために役に立ちたい」という思いを、「売れた」「使ってもらえた」「褒めてもらえた」という経験や、やりがいももてるような場を設定することで、「また働きたい」という望ましい職業感へとつなげていく。また、生徒が仲間と共に試行錯誤を繰り返し、課題を乗り越える喜びを感じる経験ができるように、仲間と共に課題解決をする活動や環境を設定していく。この作業学習を通して、働くことで役に立つ嬉しさ、やりがい、自分の成長などを感じられるようにさせたい。

また、作業学習の指導に当たって、以下の点を考慮することが重要とある。

- (ア) 生徒にとって教育的価値の高い作業活動等を含み、それらの活動に取り組む喜びや完成の達成感が味わえること。
- (イ) 地域性に立脚した特色をもつとともに、原料・材料が入手しやすく、持続性のある作業種を選定すること。
- (ウ) 生徒の実態に応じた段階的な指導ができるものであること。
- (エ) 知的障害の状態等が多様な生徒が、共同で取り組める作業活動を含んでいること。
- (オ) 作業内容や作業場所が安全で衛生的、健康的であり、作業量や作業の形態、実習期間などに適切な配慮がなされていること。

そこで、枡作りで廃棄される鉋くずを利用して「大垣産！木のメモ帳」を作ることにした。大垣市は、全国シェアの80%を占める枡の生産地である。ヒノキの間伐材を使って作る枡、さらに枡作りにおいて廃棄される鉋くずを利用する。このことで、生徒に間伐材を使うことが林業を支えることにつながる意識がもてる場を設定すると共に、地元大垣の産業に誇りをもつきっかけにする。また、枡屋さんに鉋くずをいただきに行くことに始まり、薄い木を水に浸けて伸ばしたり、まっすぐに切ったり、メモ帳に綴じたりと、完成するまでに必要な工程が多く、一人一人が自分の役割を責任もって行うことの大切さを感じることができる。

例えば、一つの活動を集中して行う時間が短い生徒には、集中してできる時間を想定して仕事内容と量を設定し、一定量を終えたら報告するようにした。仲間の動きを見て自分の動きを調整したり、声をかけたりする力を高めたい生徒には、仲間の動きに合わせて行う必要のある版の上げ下げの担当とした。このように、生徒の実態に応じて役割を分担し、仕事量を調整することで、生徒一人一人が自分の目標の達成に向けて主体的に取り組むことができると考える。

また、本学級で作業学習として「印刷」を取り扱うのは初めてであり、どのような作業活動なのか生徒がイメージできるようにするために、近隣の特別支援学校の作業学習（印刷コース）で体験する活動を設定した。特別支援学校の作業学習で自分のエプロンにオリジナルのロゴを印刷する活動を通して、印刷の仕方を学ぶだけでなく、特別支援学校の生徒の姿から挨拶や報告などの丁寧さや集中して真剣に取り組む姿勢を感じ取れるようにしたい。

将来、生徒が働いて得た賃金で買い物をするとき、安価な品だけを何気なく選ぶのではなく、地元で生産された良い品を選んだり、自分のくらしに必要なものを選んだりできる消費者になるように願っている。それが、働いて得たお金を大切にすることであり、一生懸命働くことの価値を感じている態度である。つまり一生懸命働く自分を大切にすることにつながると考える。生産者であり消費者である生徒一人一人が、社会のルールやマナーを守って自分らしい選択をできるようになるために、「大垣産！木のメモ帳」を作る経験をさせたい。

3. 生徒の実態と単元指導計画【別紙1】【別紙2】

4. 年間の見通し【別紙3】

5. 研究にかかわって

中学校研究主題： 「仲間との学びを生かした、わかるできる授業の創造」

（１）教科の本質に基づいた本時つきたい力の明確化

個別の教育支援計画、指導計画をもとに生徒の実態を把握し、将来の自立や社会参加につながる姿を見通して、今年度の３月に願う姿、学期ごとに願う姿を明確にした。（【別紙３】年間の見通し）

さらに、本単元における願いを次のように考えた。

○２学期末の保護者や学校職員への販売に向け、自分の役割に最後まで精一杯取り組む姿

○仲間と声をかけ合いながら、力を合わせて取り組む姿

○準備や片付けまで自分から進んで行き、安全に留意し、よりよい製品を作ろうとする姿

生徒の実態からこのような願いをもち、単元の活動ごとに「願う姿→活動→支援」を考えた。まず、単元の始めにビデオレターを受け取った生徒に、この作業学習で大切にしたい姿を相談する。漠然とやる気が高まっている状態で、まずやさんや大垣特別支援学校中学部、高等部に修行に行くことを提示する。このように自分たちの目指す姿が具体的にイメージできるように、仕事や作業を精一杯されているたくさんの人たちとの関わる機会を設定する。この活動を通して、「５６７ストア 大切にしたい姿」として、主体的に仲間として目指す姿や自分の目指す姿をはっきりさせていく。

また、生徒の実態を踏まえて本単元の目標や手だてを設定していく際に、将来の自立や社会参加につながる長期的な目標と、学期ごとの教科や領域等における短期的な目標との関連を意識した。（【別紙１】【別紙３】）本単元における毎時間の生徒の姿から、必要に応じて目標や手立てを修正しながら、実態把握の内容も見つめ直していきたい。

（２）生徒が主体的に授業に取り組むための教師の的確な援助のあり方

① 生徒が自分でできるようにするための工夫

本単元では、生徒が見通しをもち主体的に作業学習を進められるよう、指導にあたりたい。そのため、生徒とともに販売までの目標数・活動計画表と、作業工程表を作り、製品の出来上がりを確認できるようにした。

さらに、一人一人の活動の振り返りと、「できましたマーク」を掲示し、振り返りの視点を明確にすることで、自己評価をする力を高めるとともに、仲間から認めてもらった喜びをもとに意欲がもてるようにした。なお「できましたマーク」は、生徒一人一人の好きなものを準備し、生徒とともに設定した観点が全てできたら、授業の終わりに自分で表に貼るようにした。

また、自己評価を大切にするために、毎時間振り返りカードに記入する時間を必ず確保する。ここには、本時の自分の目標についてできるようになったことと、次の時間にもう少しがんばってみたいことを書くようにする。次の時間にもう少しがんばってみたいことが、そのまま次の目標になる。毎時間のはじめの会で、本時の目標を仲間に伝え、振り返りの会では、その目標についてお互いのがんばりを聞き合い、認め合うようにする。自分の目標について振り返る活動を繰り返すことで、自分の目標を意識して活動する力や自分で目標を設定する力を付けていきたい。なお、生徒の実態に応じて、文章表記ではなく評価項目に○や△を記入する振り返りカードも準備する。

作業場面では、生徒が主体的に判断して作業できるように、それぞれの作業工程に「目印」や「ものさし」を準備する。バケツに水を入れすぎて重くなって転倒しないように「バケツにマスキングテープで目印」を付ける、木の紙の規格がわかるように「大きい枠」「小さい枠」、アイロン台に木の紙を置く位置が分かるようにシールを貼る、木の紙の数を正確に数えることができるように、「５と１０の目印があるシール台紙」を準備する、印刷済みの木の紙を１０枚ずつのセットにして乾燥棚に入れるように１０ますの紙を準備する、など、生徒の実態に合わせて手立てを工夫する。

② 分かりやすい環境づくり

本時では、分担の作業工程に責任をもち、仲間と声をかけ合いながら作業する。個のつきたい力に応じた作業工程を設定し、作業の手順表、話し方のモデルなどを個に合わせて提示し、自分から作業に取り組めるようにした。また、お互いの様子が見合えるように場の設定をしたり、次の工程の仲間に「はい」と渡して「はい」と受け取ったり、疑問があれば教師や作業長に相談するようしたりして、主体的に作業しながら教師や仲間と関わる力を高めていきたい。

【別紙 1】

単元に関わる抽出生徒Dの実態と目標、手立て

実 態	単元の目標	手 立 て
仲間や教師に対して自分から挨拶を行うことができる。場に応じた声の大きさを話すことが苦手である。	3枚できたら声の大きさに気を付けながら教師に報告する。 - 販売において適切な声の大きさを挨拶ができる。	3枚できたら報告するようにし、適切な声の大きさを話せるように声のものさしを提示する。
与えられた仕事は自分でやろうとする。一つの活動を集中して行う時間が短く、気になることがあると周囲の様子や状況に関係なくその対象に近付こうとする。	活動の見通しをもち、集中して自分の仕事をやりきる。	- 活動の見通しがもてるように、単元の活動計画や単位時間の活動内容及び終了時間を掲示や板書に位置付ける。 - 作業量を確保し、自分で主体的に作業を進められるように、水を入れたバケツを3個準備し、1枚ずつ木を入れておく。
視覚的な情報を提示すると指示を理解しやすい。指示された内容のとおりには仕事できていないことに気付かず、正確に作業できないまま繰り返し行う。	自分の活動内容を理解し、正しい長さを切り取ったかを自分で確かめることができる。	- 木を切る際に切り取る長さが分かるよう、木の片方の端を合わせる位置と切り取る位置のところに作業台にテープで印を付ける。 - 正しく切り取れたかどうか確かめる活動を手順表に位置付け、長さが合っているかを確かめるために正しい長さを切り取ったプラスチック板を準備する。
手指を使う活動が苦手、はさみをまっすぐに入れたり、適量の水のりを出したりするなどを行うことが難しい。	目印の線に沿って材料の木の端を伸ばして置き、切り取り線に沿って、まっすぐ切る。	体の正中線付近から前に向かってはさみで切ることができるように、切り始める位置へシールを張って印を付け、正しいはさみの持ち方の写真を作業台に貼っておく。

教科及び領域等における2学期の目標（抽出生徒D）

国 語	社 会	数 学	美 術	特別活動
- 教師や仲間の話を最後まで聞く。【話す・聞く】 - 相手に聞きやすい声の大きさを話す。【話す・聞く】 - 誰に、どのような目的で手紙を出すのかを理解し、何を伝えるのかを教師と一緒に考えて手紙を書く。【書く】	- 地域の人々の生産や販売の仕事の様子に関心をもち、意欲的に調べる。【意欲・関心・態度】 - 枿屋で働く人の話を聞き、感想を学習プリントに書く。【技能】	- ものの個数を10ずつまとめて数えることができる。【技能】 3位数までについて十進位取り記数法による数の表し方を理解する。【知識・理解】	- お客様にとって分かりやすい看板にするために、丁寧に折り紙を貼ろうとする。【意欲・関心・態度】 - のりを入れた容器からへらで適量ののりを取り、紙に薄く延ばして付ける。【創造的な技能】	- 仲間と話し合っで決めた学級の約束を守ろうとする。【意欲・関心・態度】 - 委員会活動や係活動の仕事の仕方を理解して、最後までやりきる。【知識・理解】

【別紙2】単元指導計画

時	主な学習活動	生徒Dの目標	生徒Dへの支援
1	ビデオレターを観て、木のメモ帳を作って、学校内で販売することを知る。	校内の先生方や交流学級の仲間からの依頼を受けて、木のメモ帳を作って販売することを理解する。	- 事前にビデオレターを準備する。Dの意欲が湧くように、「Dさん～」と名前を入れて呼びかけてもらう。 「木のメモ帳」の完成品を提示する。 - 今後の活動計画を立て、活動計画表に記入する。
2 3	- メモ帳に印刷するイラストのデザインを考える。 - 木のメモ帳を作る工程を知る。 - 役割を決める。	- お客さんに買ってもらえるように丁寧にイラストを描く。 - 自分の活動内容を理解し、やってみようと意欲をもつ。	- 木のメモ帳を作る工程を写真で提示し、それぞれの作業を体験する。 - 作業工程表を提示し、役割分担を位置付ける。 - 活動計画表に販売までの目標数を記載し、毎時間の出来高を書き込めるようにする。
4 ～ 24	- 校内の生徒や先生方に買ってもらえる製品作りを目指して、自分の仕事を行う。 ①版を作る。 ②木を切って、伸ばす。 ③印刷をする。 ④丁合を行う。 ⑤製本する。 ⑥袋詰めをする。	- 目印の線に沿って材料の木の端を伸ばして置き、切り取り線に沿ってまっすぐ切る。 - 正しい長さを切り取ったかを自分で確かめる。 - 活動の見通しをもち、集中して自分の役割をやりきる。 3枚切り取れたら、声の大きさに気を付けながら教師に報告する。	- 材料の木を切り取る長さが分かるように、木の片方の端を合わせる位置と切り取る位置のところへ作業台にテープで印を付ける。 - はさみを最初に入れる位置に印を付け、正しいはさみの持ち方の写真を作業台に貼る。 - 正しく切り取れたかどうか確かめる活動を手順表に位置付け、長さが合っているかを確かめるために正しい長さを切り取ったプラスチック板を準備する。 - 報告の際には、適切な声の大きさだったかを声のものさしを示して確認する。 - 安心して道具の準備ができるように生徒Dが使う道具の写真を提示しておく。
25 26 27 28 29	- 販売の準備をする。 - 広告の作成と配付 - お昼の放送での宣伝の練習 - 販売の役割分担及びリハーサル - 販売	- 宣伝のビデオ撮りや販売のリハーサルにおいて、自分の役割を理解し適切な声の大きさを挨拶することを意識して繰り返し練習する。 - 適切な声の大きさでお客様に挨拶をする。	- 製品作りの報告で活用してきた声のものさしを示しながら、繰り返し声の大きさを評価する。 - 当日の販売における役割分担表を準備する。 - 事前に校内の先生方に協力を依頼して、販売のリハーサルを行う。

【別紙3】年間の見通し(作業学習)

3月

日常生活・学習活動における指導・援助

高める

3学期 「567ストア～卒業生・新入生に喜んでもらえる木のキーホルダーを作ろう～」

系統的な指導・援助

- 生徒会から依頼を受けた製品作りと販売活動
- ・お客様が分かっており、相手意識をもって取り組むことができる。
- ・目標が具体的で、作業効率を考えて仲間と作業できる。

2学期 「567ストア～木のメモ帳を作って販売しよう～」

できる

特別支援学校
及び地域との
交流

特別支援学校中学部、高等部(印刷班)との作業学習の交流

ますやさんでの柘作り体験と材料の仕入れ

- 先生や交流学級の生徒たちから依頼を受けた製品作りと販売活動
- ・工程が複数あり、分担された活動に責任をもってできる。
- ・仲間の作業内容や動きを意識し、仲間と力を合わせて活動できる。

1学期 「567カフェ～お茶を入れて、おもてなしをしよう～」

知る

- カフェオレを入れる経験を経て、個人懇談会でお茶をだしたり、夏休みの相談日に職員室で販売したりする活動
- ・お世話になっている保護者の方や、先生方とふれあうことができる。
- ・工程が少なく、比較的簡単に製品ができて上がる。

4月

D 男（1 年）の指導過程

3 月に 願う姿

- ①場に応じた適度な声の大きさに挨拶したり、丁寧な言葉遣いをしたりする。
- ②大切なことは一人で決めず、必ず相談する。困ったときには固まらずに相談する。
- ③目的をもって、仲間と協力して活動する。
- ④仲間のよさを見つけ、丁寧に伝える。

3 学期 「5 6 7 ストア～卒業生・新入生に喜んでもらえる木のキーホルダーを作ろう～」

できたときは報告を、困ったときは相談をし、仲間にも丁寧な言葉遣いで連絡しながら作業することができる。

2 学期 「5 6 7 ストア～木のメモ帳を作って販売しよう～」

できたときは必ず報告し、困ったときは丁寧な言葉遣いで相談したりして作業することができる。

1 学期 「5 6 7 カフェ～お茶を入れて、おもてなしをしよう～」

仲間と一緒に報告したり、相談したりして作業することができる。

特別支援学
校中学部、
高等部（印
刷班）との作
業学習の交
流

ますやさん
での耕作
体験と材料
の仕入れ

〈価値付け〉

- ・高等部進学とつなげて
- ・最後までやりきる姿に
- ・仲間のために活動する姿に

〈よさ見つけ〉

- ・仲間のよさを見つけ、伝える機会の位置づけ（帰りの会、各教科、道徳）

〈スピーチ（朝の会・各教科）〉

- ・事実をもとに話すように
- ・感想を話すように
- ・聞き手に届く声の大きさに
- ・相手の話を最後まで聞くように

〈あいさつ〉

- ・あいさつの仕方の確認
- ・丁寧な言葉遣いを意識するように
- ・いろいろな方に

1 年 1 組との授業、行事、合唱の交流

日常生活・学習活動における指導

4 月の姿

- ①自分から挨拶をすることができる。声の大きさが大きすぎたり小さすぎたりする。
- ②集団の中で、相手の意見を参考に自分の意見をもつ。自分で意思決定する力は弱い。指示を聞いてから行動に移るまでにかなり時間がかかる。困ったときに自分勝手に判断してしまったり、逆に悩みを抱え込んで固まってしまうことがある。
- ③活動への集中が持続できない姿がみられる。
- ④他者が困っていることに気付くと、助ける姿がみられるが、自分のやるべきことをやらずに助けようとしたり、相手の望まないことであったりすることがある。
- ⑤仲間のがんばりに気付き、協力して活動することのよさを感じることができる。

